

# あやまちを <sup>あらた</sup>改める

「主は <sup>しゆ</sup>あわれみに <sup>と</sup>富み、めぐみふかく、おこることおそく、  
いつくしみ <sup>ゆた</sup>豊かでいらせられる。主は <sup>しゆ</sup>常に <sup>つね</sup>せめることをせず、  
また、とこしえに <sup>いかり</sup>いかりを <sup>い</sup>いだかれぬ。  
・・・主は <sup>しゆ</sup>われらの <sup>とが</sup>とがを <sup>われら</sup>われらから <sup>とお</sup>遠ざけられる。  
(<sup>こうごやくせいしょ</sup>口語訳聖書、<sup>しへん</sup>詩篇 103:8-9, 12)

人生には、あやまちが <sup>つき</sup>つきものだ。意地悪に <sup>いじわる</sup>なって <sup>ひと</sup>人の <sup>きもち</sup>気持ちを <sup>きず</sup>きずつけてしまうことって、あるよね。イエス様は、わたしたちが <sup>あやまち</sup>あやまちをおかすことを <sup>し</sup>知っておられる。聖書にも、<sup>か</sup>こう書かれて <sup>いる</sup>いるよ。「わたしたちは <sup>みな</sup>みな、<sup>おほく</sup>多くの <sup>あやまち</sup>あやまちをおかすものである。」<sup>1</sup>でも、あやまちをおかすからって、それを <sup>あらた</sup>改める <sup>どりよく</sup>努力が <sup>できない</sup>できないというわけじゃないからね。それこそ、<sup>かみさま</sup>神様が <sup>わたしたち</sup>わたしたちに <sup>のぞ</sup>望んで <sup>おられる</sup>おられることなんだ。つまり、あやまちを <sup>あらた</sup>改めることをね。

もしまちがって <sup>だれか</sup>だれかを <sup>きず</sup>きずつけてしまったら、<sup>じぶん</sup>自分に <sup>できる</sup>できることをして、それを <sup>あらた</sup>改めよう。<sup>きず</sup>きずつけて <sup>しまった</sup>しまった <sup>ひと</sup>人に <sup>あやまち</sup>あやまち、<sup>あやまち</sup>あやまちから <sup>まな</sup>学べるよう <sup>ベスト</sup>ベストをつくすんだ。そして、<sup>つぎ</sup>次は <sup>より</sup>より <sup>よく</sup>よく <sup>こうどう</sup>行動できる <sup>ように</sup>ように <sup>がんばろう</sup>がんばろう。

<sup>かみさま</sup>神様は、<sup>きみ</sup>君が <sup>あやまち</sup>あやまちをおかして <sup>ゆるし</sup>ゆるしを <sup>もと</sup>求めると、<sup>ゆるし</sup>ゆるして <sup>くださる</sup>くださる。そして、<sup>きみ</sup>君が <sup>あやまち</sup>あやまちから <sup>まな</sup>学び、<sup>それを</sup>それを <sup>あらた</sup>改めるのを <sup>たす</sup>助けて <sup>くださる</sup>くださるんだ。



<sup>1</sup> 口語訳聖書、ヤコブの手紙 3:2